

特集 当院における 回復期

— 施設基準の違い —

回復期リハビリ病棟

- リハビリテーション科の医師1名以上
- PT3名以上、OT2名以上、ST1名以上、社会福祉士1名以上（当院の専従：PT5名、OT5名、ST1名、社会福祉士1名）
- リハビリ1日9単位まで提供可能
- 在宅復帰率7割以上
- 入院期間は疾患によって異なり、60～180日

地域包括ケア病棟

- 専任の在宅復帰支援担当者が1名以上
- 常勤のPTまたはOT、STが1名以上
- リハビリが必要な患者に1日2単位以上提供
- 在宅率7割以上 ●入院期間の上限は60日間

（地域包括ケア病棟との違い）
回復期リハビリ病棟と似たような位置づけの病棟に、地域包括ケア病棟（当院では西3病棟）があります。その違いを簡単に説明しておきます。地域包括ケア病棟の入院の目的は、自宅復帰です。自宅に戻ることが前提で入院します。そのため、自宅に戻りたい患者様で、60日以内に自宅に戻れる見込みがあれば疾患に関わらず誰でも入院することができます。一方、回復期リハビリ病棟の入院の目的はリハビリです。専門的なリハビリを受けるために、回復期リハビリ病棟に入院します。そのため、いくつかの施設基準が異なります。

回復期リハビリ病棟の対象患者	可能な入院期間
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後、又は義肢装着訓練を要する状態	150日以内
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頭頸部損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の場合	180日以内
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折、又は2肢以上の多発骨折の発症後、又は手術後の状態	90日以内
外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	90日以内
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日以内
股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日以内
急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	90日以内

— 当院の回復期リハビリ病棟の実績 —

	2018年度	2019年度	2020年度
回復期リハビリ病棟入棟患者数	372名	383名	395名
入院患者構成（％）			
脳血管疾患、脊髄損傷など	42.9%	42%	43.8%
大腿骨、脊椎、骨盤の骨折など	52.1%	54%	52.2%
脊椎疾患の術後 神経、筋、靭帯損傷	1.8%	2%	2%
人工膝関節、股関節置換術後	3.2%	2%	2%
在宅復帰率	83.78%	84.1%	85.9%
退院時のFIM総得点が16点以上改善した重傷者の数、割合	95名 56.21%	79名 52.66%	79名 48.76%
実績指数	45.92	50.29	44.39

（回復期リハビリ病棟の実績）
当院の回復期リハビリ病棟には毎年4000名弱の患者様が入院されています。疾患別では運動器疾患が中枢神経疾患よりやや多い印象です。在宅復帰率が高く維持されるのはもちろんですが、先に述べた実績指数も診療報酬改定によって当初は27以上であったのが37以上へ、さらに現在は40以上が求められています。年々、質の高いリハビリが要求されているといえるでしょう。当院でも、スタッフの努力もあってこの基準値を超えるリハビリ成果は得られており、地域に貢献できる回復期リハビリ病棟の機能が維持できていると思います。

リハビリテーション病棟について

（初めに）

回復期リハビリテーション病棟とは（以下回復期リハビリ病棟という）

私がお説明いたします

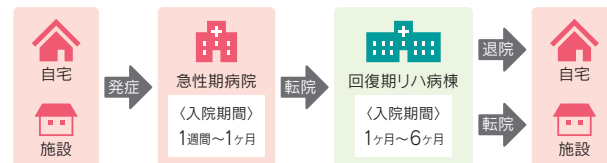
整形外科
リハビリテーション科

赤城 哲哉

宇城総合病院に赴任して18年が過ぎました。専門は整形外科ですが、回復期リハビリ病棟の専任医を兼ねたりリハビリテーション医を長らく担当しています。改めて、地域医療における当院の回復期リハビリ病棟の現状について考えてみました。



— 回復期リハビリ病棟の位置づけ —



（当院における回復期リハビリ病棟（東3病棟））
当院の特徴は、宇城市の基幹病院として機能する一方で、204床中56床の回復期リハビリ病棟を有しています。リハビリ科、整形外科、脳神経内科を含む17の科からなり、近隣の急性期病院から、脳血管系や整形外科系疾患のリハビリ患者様も多く受け入れています。
2008年に施設基準で回復期リハビリ病棟入院料1算定が開始されてからその活動が目覚ましくなっています。特に2016年度診療報酬改定により、質の高いリハビリを評価し、患者様の早期の機能回復を促進するために、回復期リハビリ病棟においてアウトカム評価が導入された点でしょう。その実績指数は、FIM（Functional Independence Measure）運動項目の退院時と入棟時の差（運動FIM利得）と、在棟日数/回復期算定上限日数で構成される計算式で表わされます。

正式名称

FIMとは？
Functional Independence Measure
-動作- -自立度- -指標-

動作をどの程度自立して行えるか？どの程度助を要するか。

〈採点項目〉
全18項目（運動：13項目/認知：5項目）
〈採点項目〉
1～7点（点数が低いほど自立度低い）
項目内で差がある場合は低い方を採用する

合計

18点から
(1点×18項目)

126点
(7点×18項目)

実績指数の計算式

$$\text{各患者の} \left(\frac{\text{入棟から退棟までの在院日数}}{\text{状態ごとの回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数}} \right) \text{の総和}$$